

＜対策のポイント＞

国際水管理研究所（IWMI）を通じて、アジアモンスーン地域の各国が適用可能な、気候変動適応型の水管理技術の研究・開発を行います。

＜政策目標＞

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルの構築（1件以上〔令和9年度まで〕）。

＜事業の内容＞

アジアモンスーン地域では、気候変動の影響により、これまで経験したことのない干ばつや洪水が多く発生し、水田農業を主体とする国々では、農業生産に多大な被害が発生しています。他方、これらの国々では、降雨データの収集・蓄積や、その変化に伴う干ばつ、洪水発生メカニズムに関する調査研究に乏しいことから、その対策の実施が困難です。

そのため、水管理の知見を有する国際水管理研究所（IWMI）を通じて、下記の取組を行います。

- 前歴事業で開発した干ばつ発生モデルを活用し、降雨パターンに応じた干ばつ・洪水の発生と、その規模を予測するモデルを構築するとともに、農村地域全体の干ばつ・洪水被害を軽減させるため、かんがい用水の適切な管理手法を検討します。
- 本事業の成果をアジアモンスーン地域の各国に共有することにより、同地域の持続的な食料システムの構築に貢献します。

〔事業実施期間：令和5年度～令和7年度〕

＜事業の流れ＞



【お問い合わせ先】（1）輸出・国際局新興地域グループ（03-3502-5913）
（2）農村振興局設計課海外土地改良技術室（03-3595-6339）

＜事業イメージ＞

前歴事業

拠出先：国際水管理研究所（IWMI）
対象国：アジア地域（スリランカ等）

アジア地域の水管理技術の研究に長年取り組んでいるIWMIの知見・経験を活用し、干ばつ発生メカニズムをモデル化。



本事業

拠出先：国際水管理研究所（IWMI）
対象国：アジア地域（スリランカ等）

前歴事業で開発した干ばつ発生メカニズムのモデルを活用し、干ばつ・洪水発生を予測するモデルを構築するとともに、かんがい用水の適切な管理手法を策定することにより、アジアモンスーン地域の持続的な食料システムの構築を図ります。

